

IV 短期大学が独自に設定した 基準による自己評価

基準 A 地域貢献

IV. 短期大学が独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 地域貢献

A-1 地域社会への貢献

A-1-① 自治体との連携事業

A-1-② 地域の事業との連携・協力

(1) A-1 の自己判定

基準項目 A-1 を満たしている。

(2) A-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-1-① 自治体との提携事業

八戸学院大学短期大学部（以下、本学）は開学以来、地域社会との連携を重視した学校運営を行ってきた。すなわち、各学科の教育理念・教育目的に基づき、それぞれの特性を活かして、地域社会の発展に寄与しうる人材の育成を目指し、地域に密着した教育活動を行っている。

平成26(2014)年には、本学および八戸学院大学の有する多様な専門性と人的・物的資源を地域において活用するために、八戸学院地域連携研究センター（以下、地域連携研究センター）が設立された。

本学と近隣自治体との連携協定について、表A-1-1に示す。

表A-1-1 本学と自治体との協定締結一覧（令和3(2021)年5月1日現在）

市町村	締結年月日	協定書名称
新郷村	平成26(2014)年3月27日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
階上町	平成27(2015)年3月26日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
五戸町	平成27(2015)年4月16日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
八戸市	平成27(2015)年12月24日	八戸学院大学、八戸学院短期大学及び八戸市における健康福祉連携協力に関する協定書
南部町	平成28(2016)年3月23日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
三沢市	平成30(2018)年3月22日	地方創生に係る包括連携協力に関する協定書 （大学・短期大学部）
三戸町	令和元(2019)年8月20日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学部）

これらの自治体から本学に協力の要請があった場合は、地域連携研究センターがそれを受け、学科に下ろして検討するか、それぞれの事業に関連する教員に直接的に依頼する。令和3(2021)年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、活動には大きな制限が課せられたほか、中止になったものも多かった。例年の概要と令和3(2021)年度の実績を以下に述べる。

1. 八戸市

八戸市（まちづくり文化スポーツ部新美術館建設推進室）の委託を受け、幼児保育学科の美術教員が令和元(2019)年度より「八戸市アートの学び事業」に参画した。令和3(2021)年11月には八戸市新美術館がオープンし、そこには八戸学院大学と本学のサテライトオフィス「まちなカラボ」が入居した。今後はそこを拠点としたさまざまな活動を展開する予定である。

2. 階上町

階上町連携事業として、例年、「はしかみ臥牛山まつり」「階上町民文化祭」「はしかみいちご煮祭り」に本学の学生が参加し、ステージでアンパンマンのダンスを演じたり、来場した子どもたちに多様な遊びの場を提供したりしているが、前年に引き続き、令和3(2021)年度もすべて中止となった。

3. 南部町

地域の介護人材不足の現状を踏まえ、介護福祉学科では「青森なんぶモデルによる介護人材の確保・育成スキーム」の確立を目指している。これは、留学希望者と養成施設（本学）と介護施設をつないで介護人材を養成しようとするもので、在学中の生活支援は南部町の介護保険事業者が行う予定である。令和3(2021)年度に準備を進め、令和4(2022)年に1人のベトナム人留学生がこのスキームを活用して入学した。

A-1-② 地域の事業との連携・協力

1. 出張講義・講演

幼児保育学科・介護福祉学科ともに、地域の研修会等に多くの教員が講師として協力している。近年は「保育士等キャリアアップ研修の実施について」（平成29年4月1日雇児保発0401第1号厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長通知）を受けて、保育者を対象とした研修への協力要請が増大している。

令和3(2021)年度もオンラインによるものを含め、多くの講義・講演が行われた。実績としては、青森県放課後児童支援員資質向上研修、青森県保育連合会主催保育士等キャリアアップ研修「幼児教育分野」、青森県運営適正化委員会主催福祉サービスに関する苦情解決事業研修会、青森県放課後児童支援員認定資格研修、青森県外国人介護人材環境整備事業者研修、八戸市中学校教頭会・教頭研修、八戸市小学教頭会・教頭研修、保育のデザイン研究所主催保育士等キャリアアップ研修「障害児保育分野」、放課後児童支援員認定資格研修、八戸市ファミリーサポートセンター提供会員養成講習会、八戸地方創生事業スポーツクリニック栄養講座、三沢・上北広域権利擁護支援センター・市民後見人養成講座、岩手県成年後見人人材育成講師、岩手県社会福祉協議会喀痰吸引・経管栄養研修、岩手県高等学校教育研究会学校保健部会久慈支部研修、認定こども園八戸文化幼稚園での講演、八戸学院聖アンナ幼稚園での講演、特別養護老人ホームハピネスやくら外国人技能実習生（ミャンマー）向け資質向上研修等があった。

2. 地域の子育て・高齢者支援事業への参画

教員は講義・講演等の形で地域の事業に協力するだけでなく、その事業に自ら参画し、活動もしている。令和3(2021)年度の実績としては、障害のある(疑われる)子どもへの支援として、専門の教員2人によって、児童発達支援センターでの療育相談、放課後児童クラブに通う子どもの保護者の相談、中学校区の特別支援教育に係る巡回相談(スクリーニング)が行われた。また、読み聞かせを専門とする教員が八戸市読書推進事業「ブックスタート」に参画し、読み聞かせ活動を実践した。高齢者支援に関わる活動としては、施設の在宅介護支援センターにおけるその地域の高齢者を対象とした体操教室の実践があった。

3. その他の社会活動

教員はさまざまな会議体や団体の委員・アドバイザーとして活動している。令和3(2021)年度の実績として、青森県待機児童対策協議会委員、八戸市子ども・子育て会議委員、八戸市子ども支援センター委員、八戸市幼保小連携協議会アドバイザー、青森県介護支援専門員研修向上委員会委員、青森県介護支援専門員協会初任介護支援専門員研修部会長、三沢市子ども・子育て会議委員、おいらせ町子ども・子育て会議委員、八戸市社会教育委員、八戸市都市研究会委員、多文化都市八戸推進懇談会委員、八戸市景観審議会委員、八戸市緑の審議会委員、あおもり食育サポーター、認定特定非営利活動法人成年後見センターもりおか会員、社会福祉法人八戸市社会福祉事業団理事・評議員、岩手県社会福祉士会・権利擁護センターぱあとなあ岩手副委員長、岩手県社会福祉士会盛岡ブロック役員、社会福祉法人カナンの園評議員等があり、団体の理事、評議員、監事を務めている教員は少なくない。

(3) A-1の改善・向上方策(将来計画)

今後も八戸学院大学と協力し、地元自治体との連携を深め、本学の専門性・教育力を生かした地域貢献を行う。

A-2 地域に密着した教育・研究

A-2-① 青森県南地域をフィールドとした教育活動

A-2-② 本学の特色を活かした教育研究活動

(1) A-2の自己判定

基準項目A-2を満たしている。

(2) A-2の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

A-2-① 青森県南地域をフィールドとした教育活動

本学では、学生のほとんど(過去5年間の平均で約98%)が青森県南もしくは岩手県北地域から入学している。在学中、両学科とも地域の施設で実習を重ねるが、それだけでなく、ゼミナールその他の授業、行事、ボランティア、サークル等で地域をフィールドとした教育活動を行っている。

1. ゼミナール

幼児保育学科ではゼミナールが卒業必修科目となっている。各ゼミナールでは教員の専門性を生かした活動を展開しており、ゼミナール活動がサークルに発展していることもある。それらを主体として、地域のさまざまな場において、ハンドベル、プレーパーク、運動遊びの指導、障害児との交流、親子料理教室、現代芸術教室「アートイズ」などの多彩な活動が行われている。

2. ミニオペレッタ

幼児保育学科2年生は卒業前の2月に開催される八戸市主催の「はちのへこどもフェスタ」において、2年間の学びの集大成である「ミニオペレッタ」発表を行ってきた。これは幼児保育学科の卒業必修科目「総合表現」に位置づけられるもので、4つのグループがそれぞれ工夫を凝らした舞台を披露する。毎年学生の保護者や卒業生だけでなく、地域の子どもと保護者が大勢来場し、アンケートには多くの好意的なメッセージが寄せられている。

令和3(2021)年度はこどもフェスタが中止になり、いったんは学内での開催が決まったが、その後、3月に八戸市公会堂ホールを借りて無観客で行うことになった。キャンパス入構制限で練習が中断したり、時期が遅れたことで全員の参加がかなわなかったりと、万全の状態ではなかったが、どのグループも工夫を凝らした素晴らしいパフォーマンスを披露した。令和4(2022)年度からはこどもフェスタを離れ、本学の卒業公演として同ホールで実施する予定である。

【資料 A-2-1】「ミニオペレッタ」資料

3. 八戸七夕祭り

地域に根ざした大学として、地域行事である八戸七夕祭りの前夜祭で行われる「八戸小唄流し踊り」に例年参加している。

幼児保育学科ではこの活動は体育と美術のカリキュラムに位置づけられており、毎年1年生の美術の授業で七夕祭りの吹き流しを制作し、中心街の飾り付けに寄与している。学生らしい創意工夫を施した吹き流しは平成28(2016)年に最優秀賞を獲得し、その後も毎年優秀賞を受賞している。

令和3(2021)年度は前年に続いて七夕祭りが中止となったが、郷土を愛する心を育む活動として、体育の授業での流し踊りの練習と美術の授業での吹き流し(学内向けに小さいサイズのもの)の制作は継続した。完成した吹き流しは学生ホールに飾り付け、グラウンドにおいて流し踊りのイベントを実施した。

【資料 A-2-2】「流し踊り」資料

4. 授業における地域児童との交流

幼児保育学科では例年「健康」と「環境」の授業のコラボレーション活動として、市内の保育園園児と交流している。令和2(2020)年度はオンラインでの交流会としたが、その反省を踏まえ、令和3(2021)年度は対面での交流を実施した。

令和2(2020)年度に青森県環境生活部青少年・男女共同参画課からの依頼を受け、介護福祉学科「地域活動と社会貢献」の授業を活用して、中・高校生を対象とした「他人を思い

やり命を大切にすることを育む対話集会」に学生がファシリテーターとして参加した。令和3(2021)年度もこれを継続し、介護福祉学科の特色ある教育活動となっている。

5. はちがくフェス（学園祭）

本学では学園祭を教育の一環と位置づけ、日頃の学習の成果を発表するとともに、来場者と交流して学びを深める場としてきた。例年、幼児保育学科では各ゼミナールが主体となって子どもが楽しめるさまざまな遊びや造形活動を企画運営する「子どもの部屋」、「ピアノコンサート」、「ウインドアンサンブルコンサート」、「ハンドベル演奏会」、「子どもの体力測定」等を実施しており、介護福祉学科では「介護体験コーナー」を運営している。

令和3(2021)年度は感染状況を鑑みて対面での開催を見送り、学生会が中心となってオンラインでの学園祭を実施した。

【資料A-2-3】「はちがくフェス」パンフレット

6. ボランティア

本学は地域に根ざした高等教育機関として、地域の多くの施設からボランティアの依頼を受けており、学生に対してはキャンパス外の貴重な学びの経験として、ボランティア活動を推奨している。活動内容はさまざまだが、保育所や幼稚園、小学校、福祉施設の行事の運営補助やステージ出演が多い。しかし、令和3(2021)年度も前年に引き続き、学校の方針としてボランティアはすべて中止とした。

A-2-② 本学の特色を活かした教育研究活動

研修会等とは別に、教員の持つ専門性を生かし、一般市民を対象として継続的に行われている活動がある。これらは地域貢献活動であるとともに、教員の実践的研究の場であり、参加する学生にとっても貴重な学びの場となっている。

1. 現代芸術教室「アートイズ」

幼児保育学科の美術教員が現代芸術教室「アートイズ」の主宰を務め、八戸市との連携事業に参画するほか、さまざまな機会にワークショップを開催し、子どもが造形活動を通じて創造性を広げる場を設けている。子ども・保護者からの評価はきわめて高く、リピーターの参加者が多いのが特徴である。令和3(2021)年度もコロナ禍にも関わらず、多彩な活動が展開された。

【資料A-2-4】「アートイズ」リーフレット

2. ウォーキングクラス・体操教室

平成26(2014)年度より地域の高齢者を対象として、本学教員と学生スタッフ（ワークスタディ）が、健康促進のためのウォーキングクラスを本学体育館で週2回実施している。令和3(2021)年度も参加者の要望を受け、新型コロナウイルス感染対策を施した上で活動を継続した。

また、まだ継続的な活動にはなっていないが、祖父母と孫、親子を対象とした体操教室も行われた。

【資料A-2-5】「ウォーキングクラス」リーフレット

3. 1Park（わんぱーく）

従来の公園等とは異なり、子どもが自由に遊びを展開することができる場「プレーパーク」を作る活動が全国的に拡大している。本学では幼児教育を専門とする教員がこの活動を実践しており、地域のさまざまなイベント等に参加し、ゼミナールの学生とともに冒険遊び場「1Park（わんぱーく）」を提供している。保護者からは、子どもが夢中になって遊ぶ姿に新鮮な感動を覚えたといった高い評価が毎回寄せられている。

令和3(2021)年度はコロナ禍ゆえのニーズを踏まえて、「八戸市まちづくり助成金」を得て活動を展開した。その成果を「学生&高校生まちづくりコンペティション」において発表し、市長賞を受賞した。

【資料A-2-6】「1Park」リーフレット

4. ハンドベル・音楽活動

幼児保育学科の音楽の教員がゼミナールとサークルでハンドベルの活動を展開している。さまざまな機会にミニコンサートを開いて成果を披露するとともに、系列の幼稚園等で子どもにハンドベル体験を提供し、また、卒業生有志から成るハンドベルのグループ「HGJC リンガーズ」を長年運営・指導している。令和3(2021)年度はさらに、市内の小学生を対象とするイングリッシュハンドベルチームを結成した。

演奏活動としては3箇所で開催し、そのうち、八戸ポータルミュージアムはっちにおけるコンサートでは、3つの音楽系ゼミナール合同で、フルート・パーカッション・ピアノでのアンサンブル演奏や声楽アンサンブルの発表も行われた。

【資料A-2-7】ハンドベルコンサートリーフレット

5. 絵本の制作と読み聞かせ

読み聞かせサークルの学生が中心となり、八戸市の令和2(2020)年度学生まちづくり助成金を利用して、八戸をテーマとする『せんべいくん、なんぶのまちへいく』『はちのへのうみ』『みほのものり』という大型手作り絵本の制作に取り組み、法人内幼稚園で読み聞かせを行った。令和3(2021)年度は制作した大型絵本を用いた活動を地域の子どもを対象としたイベントにおいても実施した。

(3) A-2の改善・向上方策（将来計画）

令和2(2020)年度からコロナ禍が続いているが、短期大学は在籍期間が2年しかないこと、一度途切れると伝統の継続が困難となることから、令和3(2021)年度は形を変えたり、規模を縮小したりはしたものの、なるべく活動を中止しないで実施した。

今後とも、青森県南地域をフィールドとした教育活動を積極的に展開し、学生の資質の向上に努めるとともに、卒業生を含む地域の人材育成の支援を行う。

【基準Aの自己評価】

本学は現在 7 つの自治体と連携協定を締結し、さまざまな地域貢献活動を行っている。

本学の地域貢献の多くは、地域の教員や保育者、介護従事者を対象とした教育活動である。教員が出張講義や研修会での講師や、会議体や団体の委員を務める機会は多い。そのほか、地域住民を対象とした活動も行われており、今後の発展が期待される。

学生への教育としては、実習だけでなく、ゼミナール等の授業でも地域をフィールドとした活動がさまざまに展開されており、サークル、行事、ボランティアでも地域住民との交流が行われている。このように、地域をフィールドとした教育活動が本学の大きな特徴である。これは将来の地域発展に資する人材育成につながるものであり、教員の研究、学生の教育の土台であるとともに、本学の魅力を地域に発信する重要な活動となっている。